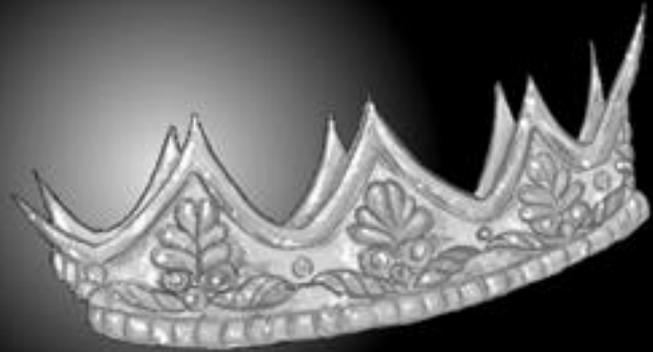




あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM '97 8月号

夏休みのプラネタリウム



かんむり座物語

今月のプラネタリウムでは、かんむり座にまつわるギリシャ神話を物語にして紹介しています。

この星座はクレタ王女アリアドネのかんむりをデュオニソス神が空に投げたものと言われます。アリアドネはクレタ王ミノスの娘で、ミノスはフェニキア王女エウロパと大神ゼウスの子です。ゼウスがエウロパを白い牛に化けてさらった話は、おうし座の神話として知られます。

物語の舞台は、アーサー・エヴァンスの発掘で有名なクレタ王国です。アイゲウスを国王とするギリシャ本土のアテネ(アテーナイ)は、まだクレタに朝貢する小国でした。ところがこの朝貢は、9年ごとにアテネの若者14人を、クレタの半牛半人の怪物ミノタウロスのいけにえにするという恐ろしいものでした。アイゲウスの王子テーセウスは、このいけにえの一行に志願して参加、ミノタウロスを倒して国を救う決意を胸に、

クレタに向かいます。

勇敢な若者の姿は、もともとこの習わしに心を痛めていたクレタ王女アリアドネの胸を打ちました。アリアドネはテーセウスに一目ぼれしてしまい、祖国と愛しい人との間で悩みます。そして、アリアドネの選択は、物語の歯車を悲しい方向へと回転させてしまうのです。

物語の語り手はアリアドネの妹(姉という説もある)パイドラ。この人は後にギリシャ悲劇の傑作とされる『ヒッポリュトス』(エウリピデス)の題材となった事件で、やはり悲恋の主人公になります。このお話は、あの「こと座」の、オルベウスとエウリディケーの恋に劣らず悲しい、もしくは寂しい物語かもしれませんが、古代の人たちが星座に込めた願いの一端でも味わっていただければ幸いです。

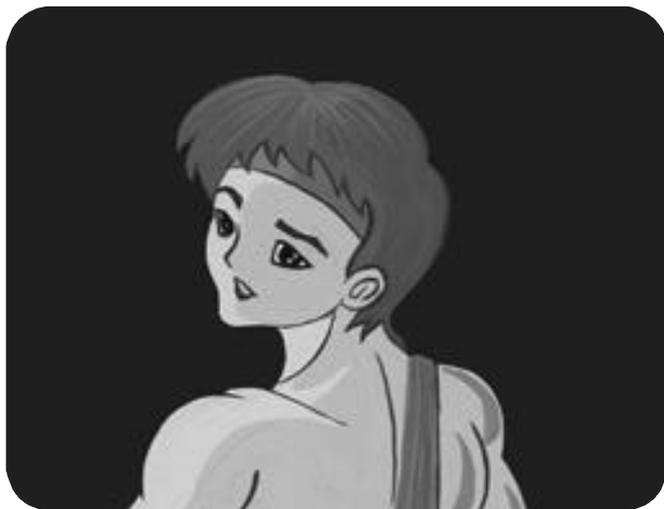
かんむり座物語

キャラクター紹介

この番組のキャラクターのデザインは仲野貴子さんにお願しました。デザインしていただいた彩色画をスキャナ入力し、パソコン上で処理しているいろいろな表情を加え、スライドにしています。

また、実景写真を画像処理し、イラストと合成してスライドにしたりもしています。

ここ数年、プラネタリウムの投影番組づくりもずいぶん様変わりしてきました。



テーセウス

アテナイの王アイゲウスの王子。悪党退治で名をはせた神話時代の英雄のひとりです。ミノタウロス退治の後に王となり、アリアドネの妹パイドラーを王妃に迎えましたが、パイドラーの手紙にだまされ、王子ヒッポリュトスをみずから死に追いやってしまいます。

ミノス

クレタ島の偉大な王。その父は大神ゼウスとされています。正義感が強い、アリアドネのきびしい父でした。かつて王子を謀殺された怨みからアテナイを攻め、いけにえを送ることを約束させました。アリアドネに裏切られた後、その手引きをしたイカロス、ダイダロスの父子を追いましたが失敗し、あえなく最期をとげてしまいます。



アリアドネ

クレタ王ミノスの娘。後に星座となったかんむりの持ち主で、この物語の主人公ということになります。いけにえの儀式に反対するなどやさしい心の持ち主でしたが、いけにえの一行にまぎれこんでいたテーセウスを愛してしまったために、悲しい運命に落ちてしまいます。



物語化に際し、地名、人名などはできるだけ耳慣れたものを使用しました。また、人物の性格設定なども神話をもとにアレンジを加えています。詳しくはFM「ナパサ」9月1日の放送（午後3時頃）でもお話しします。

夏休み期間のプラネタリウムのお知らせ

- ・ 投影日 水曜・木曜・土曜・日曜のそれぞれ11時と2時の2回
- ・ ただし8月31日（日）は投影はありません。
- ・ 今後の予定 かんむり座物語 9月7日まで
生命の星の条件 9月13日～11月9日
星空の歳時記 11月15日～2月1日

夏期特別展「農家の四季」のみどころ

特別展示室入口手前の廊下に、3枚のカラー地図が貼られています。地図は、畑や田んぼ、桑畑、果樹、山林ごとに色分けされた土地利用図です。明治40年頃、昭和12年頃、そして現在（平成元年）の3枚の地形図を見比べることにより、土地利用の変遷および、地域ごとの特色をつかむことができます。明治後期の土沢地区では谷のかなり奥まで谷戸田が作られ、さらにその奥は畑になっていたことがわかります。また、相模川沿いには桑畑がまとまって分布していました。こうした古地形図を携えて、現地を訪ねてみると、個々の土地に刻まれた時間の流れをたどったり、土地利用が地形などの立地条件によって定められていたことをつかむことができるでしょう。

展示室は、春から冬へ、季節の流れに沿って配列されています。春は、「田うない」「牛馬耕」「苗代」「サクイレ」の4コーナーから構成されます。三角コーナーには、実物大の牛と人間を作り、牛にスキを引かせて田をすいている場面を展示しました。首木や鞍やスキの装着法、それに手綱の操作法を具体的に知ることができます。続いて、サクイレといって、かつて麦畑の間に作物を仕付けるときに用いたオンガと呼ばれる鎌を4本展示しました。オンガは、このあたりに特徴的な農具で、神奈川県では主に中南部から南西部の畑地で使用されました。

夏は「クルリブチ」「田植え」「マンガアライ」「夏の行事」から構成されます。クルリは、麦をはじめ、稲、アワ、ソバ、大豆などの脱穀に用いた道具で、クルリの回転する様子を壁に展示しました。麦刈りが済んで旧の国府マチの6月21日過ぎになると田植えを開始しました。展示室に1m80cm×90cmの田んぼを作りました。



田仕事のときの野良着（戦前、神田村）

た。このねらいは、手植え時代の苗と苗の間隔や植え方の手順を知ってもらうことにあります。苗を真っ直ぐ植えるために張った縄と縄の間隔をヒト八カといい、1m50cmくらいになります。展示では、ヒト八カを一人が受け持ち、横に6株くらいずつ植えて後退する様子を表しました。田んぼの足跡マークは、植える所が体重で沈まないように足を株間に置いて植えることを示します。田植え後、半月、さらにまたその半月後に田の草取りをしますが、戦後になると除草機を株間のタテヨコに転がして草を取りました。除草機を入れたり、稲刈りのしやすさのためにも苗の列をそろえる必要がありました。

秋は「地神講」「畑うない」「稲刈り」「稲こき」から構成されます。稲刈りではドブツ田や水っ田と呼ばれた湿田の稲刈りをイメージして展示しました。水深い田の土は軟らかく、腰くらいまで水に浸かって稲刈りする田もありました。刈った稲は直接田に置くと泥で汚れてしまうので、刈り台の上に乗せて束ね、これを田舟に積んで運んだり、刈り台を引いて畦まで出し、根元を広げて畦に立てて干しました。

冬は「初すり」「ケズリカケ」「山の利用」「藁の利用」の4コーナーから成ります。小正月は、マユダマ、アーボなど豊作を祈る行事がいくつかあり、ケズリカケもその一つで、秦野市今泉で作られた様々な形のケズリカケを展示しました。また、「藁の利用」では、中村和枝さんの協力により、ワラゾウリの製造過程を展示することができました。期間中は、ご希望があれば、体験コーナーで実際にゾウリを作ることにもできます。なお、当初「寄贈品コーナー」で実施を予定していた「養蚕展」は、特展示室入口廊下のケースに変更しました。ご了承ください。

講演会のお知らせ

8月10日（日）には、「稲作と畑作の農耕文化」と題し、相模原市立博物館の加藤隆志学芸員による講演会が催されます。今回の展示では、昭和30年代以前の平塚の農業を知ってもらうことを心がけたので、地域による農具の比較をしていません。講演会では、平塚と相模原、稲作と畑作という、両地域の農業の違いを比較し、それぞれの農耕文化についてお話しいただきます。条件の異なる土地と比較することで、平塚市の農業の特徴が浮き彫りにされ、私たちの足下の暮らしを見つめ直すきっかけにできると思います。ぜひご参加ください。

- ・日時：8月10日（日）午後1時30分～3時30分
- ・講師：加藤隆志氏（相模原市立博物館学芸員）
- ・会場：博物館講堂 参加：自由

博物館カレンダー

8月の行事予定

1	金	○	自然観察入門講座	
2	土		天体観察会 スターウォッチング	
3	日		天体観察会 スターウォッチング 自然観察入門講座	
6	水	○	体験学習 縄文土器	(館内)
7	木	○	体験学習 縄文土器	
		○	自然観察ゼミナール (セミのぬけがら)	
		◎	星を見る会	
8	金	○	体験学習 縄文土器	
		○	みんなで調べよう (まとめ)	
9	土		古文書講読会 平塚の空襲と戦災を記録する会	(館内)
		○	こども観察会	(大山)
		○	わらじを作って大山参り (特別展開連行事) 自然観察入門講座	
10	日		民俗探訪会	(館内)
		◎	特別展記念講演会	(館内)
12	火		天体観察会 流星群の観察13日まで	(函南)
13	水	○	自然観察ゼミナール (セミのぬけがら)	
14	木		石仏を調べる会	
		◎	星を見る会	
16	土		平塚の空襲と戦災を記録する会	
		○	わらじを作って大山参り (特別展開連行事)	
17	日		相模川の生い立ちを探る会	(西沢)
20	水	◎	自由研究相談会	
21	木	○	体験学習 地形模型	
		◎	星を見る会	
22	金	○	体験学習 地形模型	
23	土		古文書講読会 地質調査会	
24	日		古代遺跡を探す会	
26	火	○	体験学習 地形模型	
27	水		地質調査会	
		○	体験学習 縄文土器	
28	木		石仏を調べる会	
31	日		特別展期間中につき開館します	

◎は参加自由 ○は申込制 他は会員制

●寄贈品コーナー

「平塚の空襲と戦災展」

平塚が受けた戦争被害の記録と当時の資料を公開します。

・会期：9月12日(金)まで

9月の行事予定

6	土	○	自然観察ゼミナール (帰化植物入門)	
7	日		民俗探訪会	(館内)
10	水		地質調査会	(館内)
11	木		石仏を調べる会 博物館実習 18日まで	
13	土	◎	漂着物を拾う会 古文書講読会	(館内)
			平塚の空襲と戦災を記録する会	(館内)
			プラネタリウム 生命の星の条件 11月9日まで	
14	日	○	自然観察ゼミナール (帰化植物入門) 地質調査会	(館内)
17	水		裏打ちの会 プラネタリウム 学習投影 1月末まで	
20	土		平塚の空襲と戦災を記録する会 地質調査会 天体観察会 変光星の観察	(館内)
21	日		古代遺跡を探す会	
25	木		石仏を調べる会	(館内)
27	土		古文書講読会	
28	日		相模川の生い立ちを探る会	(国府津)

◎は参加自由 ○は申込制 他は会員制

●体験学習

「地形模型を作ろう」

期日：8月21・22・26日

場所：博物館科学教室

内容：地図を使って丹沢東部の立体模型を作り、地形に親しみます。

申込：8月5日までに往復ハガキで。定員30名。申込多数の場合は抽選とします。

参加費：1600円

対象：4年生以上、3日間参加できる方に限ります。

●自然観察ゼミナール

帰化植物入門

日程：9月6日、9月14日、10月12日

場所：博物館・相模川・金目

内容：帰化植物の種類や生態について学びます。

申込：8月25日までに往復ハガキで。

3日間参加できる方に限ります。

あなたと博物館

22巻 5号 通巻 246号 発行 平塚市博物館 3000

〒254 平塚市浅間町12-41 TEL:0463-33-5111 FAX:0463-31-3949